



**IAIA**  
International Association  
for Impact Assessment

世界の先住民と地元  
民の伝統的知識をう  
まく取り込むことでイ  
ンパクトアセスメントと  
事業の持続可能性が  
大きく向上する

### 著者

Peter Croal  
With input from  
Maria Rosário Partidário  
Charlotte Bingham  
Richard Fuggle  
Angeles Mendoza Sammet  
Kepa Morgan  
Julia Nowacki

和訳  
浦郷昭子

## FASTIPS

No. 12 | November 2015

## 先住民・地元民と伝統的知識

### Indigenous and Local Peoples and Traditional Knowledge

伝統的知識(Traditional knowledge: TK)は、世界で5億人の先住民と地域のコミュニティによって得られ・継承された多様な知識を包含する。

“伝統的知識とは、世界中の先住民と地元コミュニティの知識・工夫・経験を意味する。何世紀にもわたる経験から生まれ、地元の文化や環境に適用されてきた伝統的知識は、世代を超えて口承されてきた。伝統的知識は、伝説、歌、民話、ことわざ、文化的価値、信仰、しきたり、掟、方言、作物や家畜繁殖などの農業習慣のような形でコミュニティで共有されている。農業や漁業、園芸、林業などの分野の伝統的知識は、主に予防的な特性がある。”(生物多様性条約より)

男性、女性、子供もTKを持ちえる。そのため、TKは、その知識を生み出したグループと直接つながっている。TKをIAに確実に活用し、先住民・地元民の文化を守っていくことが重要である。TKは、それを使う人々と不可分の存在である。

先住民・地元民の伝統は知識の宝庫であり、現代の科学的知見を補強し、IAの情報不足を補うことができる。TKは、これまで収集できなかった有益な情報を提供でき、IAの時間と資金を節約する。伝統的知識はまた、影響を評価し、適切なミティゲーションを選定するうえでも活用できる。例えば、スーダン国のアセスメントでは、土壌の肥沃度と土壌構造に関する農民の知識は科学的方法よりも有効で、情報を得るのにほんの数日しかかからなかった。伝統的知識を使うことで、事業者は影響を受ける人々の信頼と協力を得ることができ、事業の成功にとっても重要である。

多くの国際宣言でも先住民・地元民の知恵が尊重されている。以下はその一部である。

- 「先住民の権利に関する国際連合宣言(UNDRIP)」は特定の懸念事項との関連で、先住民に「自由意思による、事前の、十分な情報に基づく同意(FPIC)」を求めることに言及している。
- 国際労働機関(ILO)第16号条約
- リオ宣言
- 生物多様性条約の先住民コミュニティに影響を与える開発のためのAkwé: Kon ガイドライン
- 森林に関する原則声明(Statement on Principles of Forests)
- アジェンダ21

世界銀行、国際金融公社(IFC)とすべての地域開発銀行は、開発ポリシーとガイダンス文書を作成し、TKを有する先住民とどのように関わるかを記している。

### 伝統的知識が開発を支える

ほとんどの先住民・地元民は開発に反対しない。彼らは、尊重され、認められたいと考えており、彼らの大切なものを守るために彼らの土地や資源がどのように開発されるのか(されないのか)を決める議論に参加したいと考えている。

開発がTKの所有者に影響を与える場合、TKの豊かさと連続性が脅かされる。インパクトアセスメント(IA)の実務者と管理者は、IAの重要なパートナーとして先住民と地元民を迎え入れなければならない。そうすることでコミュニティは適切なレベルのコントロールと管理が可能になり、TKの継続・進化に必要な環境・社会状況が維持される。伝統的知識は生態系の機能と回復力に直接関係しているため、インパクトアセスメントと開発計画にとって欠かせないものである。

気候変動は、IAでTK活用の必要性を高めた。先住民・地元民と彼らの知識への敬意と関与がなければ、開発事業は持続可能にならないかもしれないし、影響を受ける人々やコミュニティも回復力とアイデンティティーを失ってしまうかもしれない。多くの国のインパクトアセスメント政策や法制度は、TKの重要性を認識してきており、インパクトアセスメントを通してTKを活用することで、先住民や地元民の権利を確実に尊重しようとしている。

### 知るべき五つの重要なこと

1. 厳格な科学に対し、TKは包括的全体的に事実を理解することから生まれている。この包括的な特性は、IAの社会的影響と文化的影響の統合を促し、新しい生物学的・生態学的視点を提供する。
2. 多くの伝統的知識は、天然資源管理に関係している。先住民・地元民によって築き上げられた知見は、従来型の科学的アプローチとの共通点が多い。
3. TKは、環境保全事業に関する教育のきっかけとして使うことができる。地元のコミュニティが保護区を共同管理しているところで、伝統的知見を環境保護教育に活用すれば、とても有効に機能する。
4. 開発事業者は、TKを用いることで、環境、自然資源、生態系サービスをより現実的に評価することができる。事業計画のプロセスに地元民を参加させ、彼らの知識を生かすことで、開発の成果が高くなる。
5. 地域の資源に依存して生きているコミュニティが、TKによって地域の詳細な知識を得ており、このことが効果的なIAを行う上で非常に重要である。コミュニティは知恵を使って、外部者が行うよりも本当の費用と便益を評価をすることができることもある。

更に知りたいですか?

[www.iaia.org/fasttips.php](http://www.iaia.org/fasttips.php)

[IAIA.org](http://IAIA.org) > [Resources](#) > [Publications](#) > [FasTips](#)

Do you have a suggestion or a request for a FasTip on a different topic? Contact Maria Partidário (mpartidario@gmail.com), FasTips Series Editor. FasTips Task Force: Maria Partidário (Chair), Charlotte Bingham, Peter Croal, Lea den Broeder, Richard Fuggle, Raphael Mwalyosi, Julia Nowacki.

### 実行すべき五つのこと

1. 伝統的慣習、手順、儀礼、意思決定ルールなどを考慮した参加型インパクトアセスメントの手法を使うこと。先住民や地元民の理解の仕方を無視したり軽視したりしてはならない。公平、信頼、敬意をもって対応することは、すべての対話の基本であり、女性・子供など全てのTK保持者を関与させること。
2. TKを調べ、使い、共有するすべての局面で、文化的に馴染む手順で実施すること。これらの手順は先住民・地元民によって確認され、全員から同意を得ること。
3. すべてのTKとIAの基本原則は「善行をする」。IAは、事業がTKを保有する人々に与える影響と、TKを継続・拡大させるための条件を特定しなければならない。
4. 独自の原生自然や土地の所有権を持つ先住民の重要な地位や価値感を認識するとともに、先住民とTKに適用される国の法律や国際的な法・ポリシー・条約を、開発行為は確実に順守しなければならない。
5. 先住民・地元コミュニティと協力し、事業が影響を及ぼす生態系から得ている物やサービスに彼らがどの程度依存しているか、許容できる限界、主な制約条件、リスクの高いエリアなどを特定すべきである。事業影響エリア内の生態系から得ている物やサービスが持続し、ネットポジティブになり、先住民・地元民の回復力を向上させるため、TKの活用法を探すこと。

### 参考となる文献、事例など

- Ogwuche, J.A. (2012) Integrating indigenous environmental knowledge into the environmental impact assessment process. *Global Advanced Research Journal of Social Science*, Vol. 1(2) pp. 22-27. [garj.org/garjgrp/pdf/2013/January/Ogwuche.pdf](http://garj.org/garjgrp/pdf/2013/January/Ogwuche.pdf)
- Emery, A.R., Croal, P. (2000) Guidelines: Integrating Indigenous Knowledge in Project Planning and Implementation. Prepared by KIVU Inc. for the World Bank and the Canadian International Development Agency. <http://www.worldbank.org/afr/ik/guidelines>
- Convention on Biological Diversity Web Site; existing instruments related to traditional knowledge: <http://www.biodiv.org/programmes/socio-eco/traditional/instruments.asp#GLN>
- Morgan T.K.K.B. (2006) "Decision-support tools and the indigenous paradigm." *Proceedings of the Institution of Civil Engineers, Engineering Sustainability*, 159, No. 4, p169-177.
- Morgan, T.K.K.B., Fa'au, T. (2013) Interactive open source decision support tool providing basic Mauri Model Decision Making Framework functionality for broad range of stakeholders. 21 August 2013. <http://mediacentre.maramatanga.ac.nz/content/mauri-pikimaui-tu-mauri-ora>
- Croal, P., Tetreault, C. & members of the IAIA Indigenous Peoples Section (2012) *Respecting Indigenous Peoples and Traditional Peoples Knowledge*. Special Publication, Series No. 9. [http://www.iaia.org/uploads/pdf/SP9\\_Indigenous\\_Peoples\\_Traditional\\_Knowledge.pdf](http://www.iaia.org/uploads/pdf/SP9_Indigenous_Peoples_Traditional_Knowledge.pdf)
- Hanna, P., Mendoza, A., Morgan, K., 2014, Mendoza, A., IAIA Key citation series, *Indigenous Peoples*, Editor: Elsa João. [http://www.iaia.org/uploads/pdf/KeyCitations\\_IP.pdf](http://www.iaia.org/uploads/pdf/KeyCitations_IP.pdf)